

平成27年度文化庁日本語教育研究協議会

「生活者としての外国人」のための日本語教育事業実践事例報告

日時:2015年10月3日(土)

於:エル・おおさか



総社市における地域参加型生活サポート 日本語教育事業の取り組み

総社市日本語教室 運営委員 兼 コーディネーター
岡山大学大学院社会文化科学研究科(文学部) 准教授

中東 靖恵

Yasue NAKATO

1. 岡山県総社市の概要

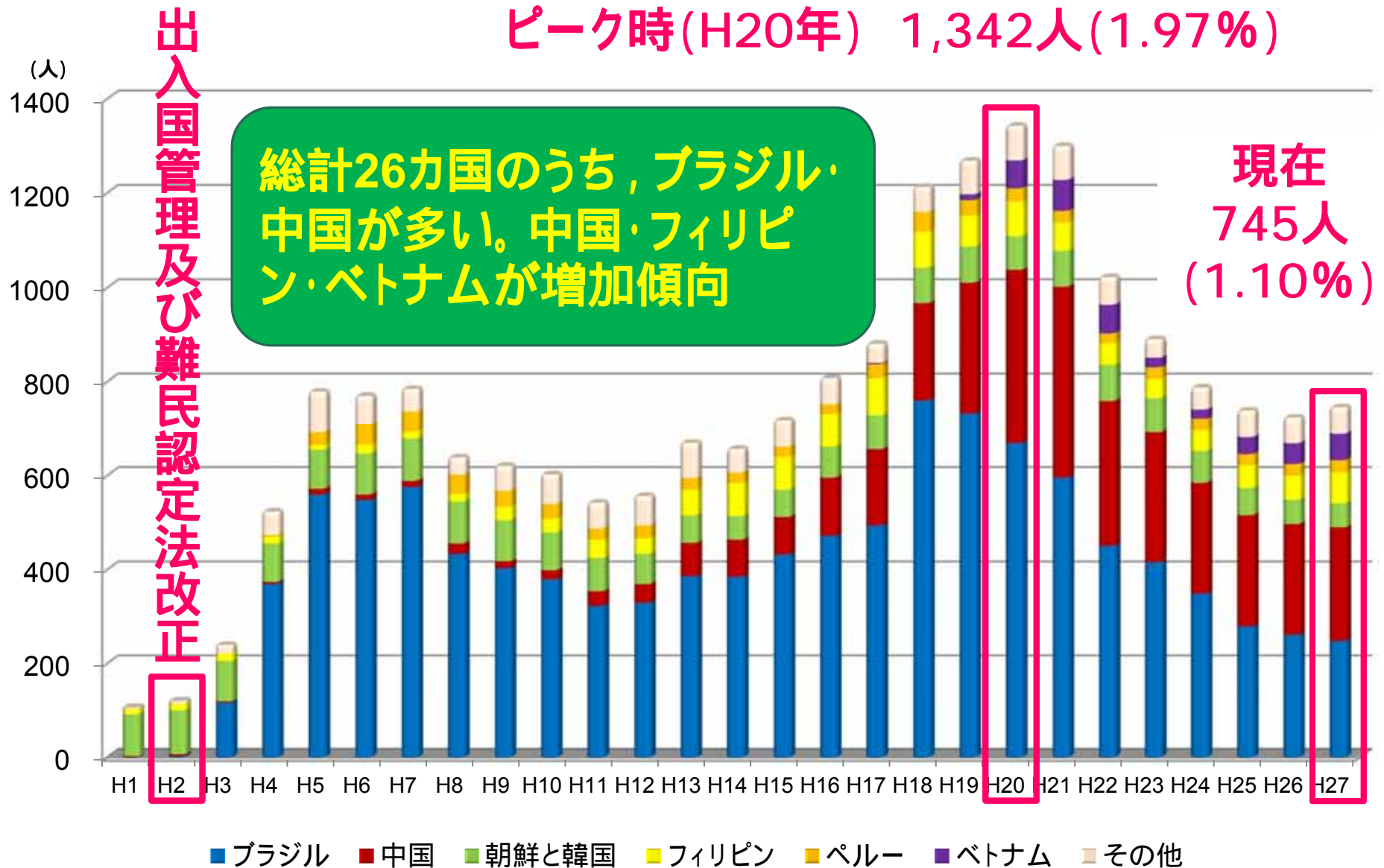
- 人口 67,820人(H27年4月)
- 総面積 212km²



備中国分寺五重塔

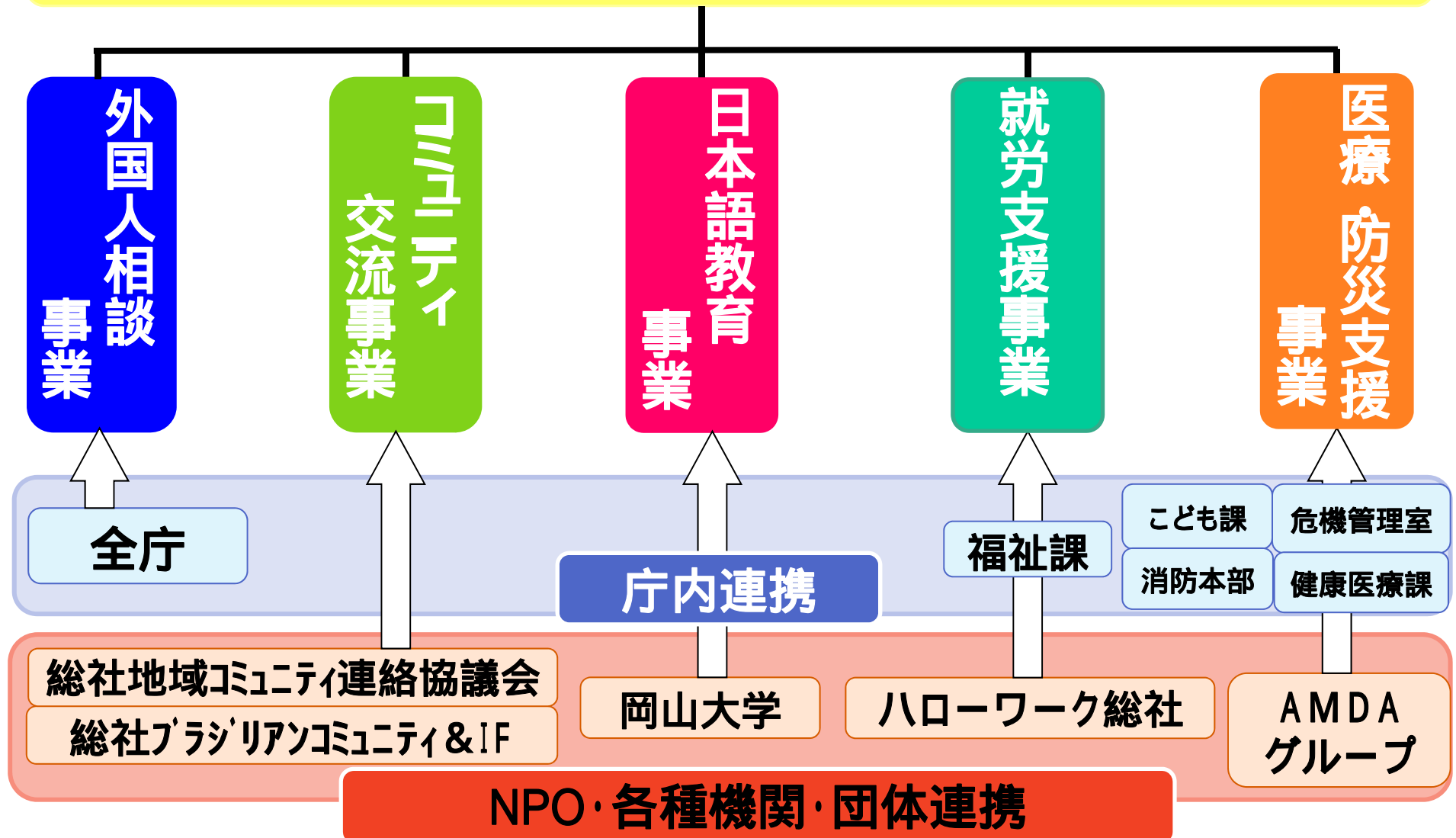


総社市の在留外国人数の推移 (H1~H27)



総社市多文化共生事業の推進体制(H21～)

市民生活部 人権・まちづくり課 国際・交流推進係



2. 総社市日本語教育事業の開始(H22～)

平成22～27年度文化庁委託

「生活者としての外国人」のための日本語教育事業



総社市地域参加型 生活サポート日本語教育事業

日本語教室の
設置・運営

地域でつながる
日本語教室

日本語教育を行う
人材の育成・研修

地域に根ざした
日本語学習サポ
ーター育成研修

日本語学習
教材作成

地域密着型
日本語学習
教材作成事業

地域の各種団体・機関等との連携・協力体制強化
地域コミュニティ連携防災訓練事業
地域ではぐくむ子育て応援事業

H24～26年度 プログラム【A】 ➡ H27年度 プログラム【B】

2-1 「地域でつながる日本語教室」の概要

- 開講日時:

毎週日曜日9:30～11:30(2時間×35回=70時間)

- 場所:

総社市保健センター(市内NPOによる無料託児付)

- 受講対象者:

地域に居住する外国人住民(成人)。
ゼロ初級レベル。母語は限定しない。

2-2 「地域でつながる日本語教室」の目的

地域に暮らす外国人住民が、日本人住民との交流を通して、日本での生活を円滑に行うために必要な日本語コミュニケーション能力の向上を図りながら、地域に密着した生活情報を得るとともに、外国人住民が地域社会の一員として積極的に参加できるよう、地域住民同士がつながる場を提供することを目的とする。

日本語能力を伸ばすことよりも地域住民として必要な「生活情報・行政情報の提供」「住民同士の交流の場」として機能させることに重点を置く

3. 総社市日本語教室の特徴

- (1) 総社市版「生活者としての外国人」のための日本語教育カリキュラム(30単位)と学習シラバス

地域社会での日常生活に必要な日本語を学ぶ

- (2) 総社市の生活情報・行政情報の提供

市役所・岡山県内団体との連携による体験学習

- (3) 「日本語学習サポーター」による学習支援

日本語教室を「地域住民同士がつながる場」へ

カリキュラムに基づいた学習シラバスの具体例

地域社会での日常生活場面を
11の領域に区分

【医療】	病院を探す, 診察を受ける
【救急警察】	110番・119番に電話する
【防災】	地震・台風について理解する
【買い物】	ちらしやメニューを読んで理解する
【社会生活】	ゴミの出し方, 市役所で相談する
【地域を知る】	総社の行事に参加する
【交通】	交通ルール・マナーを知る
【挨拶】	自己紹介, 年賀状を書く
【仕事】	職場での挨拶・言葉づかい
【学校】	学校の制度や行事を知る
【引っ越し】	引っ越しの挨拶をする

総社市環境課職員による【ゴミの分別講習】



総社市交通政策課職員による【交通安全講習】



総社市警察署による【防犯講習】



総社市消防署による【防災講習・消火訓練】



総社市内病院による【病院見学・受診体験】

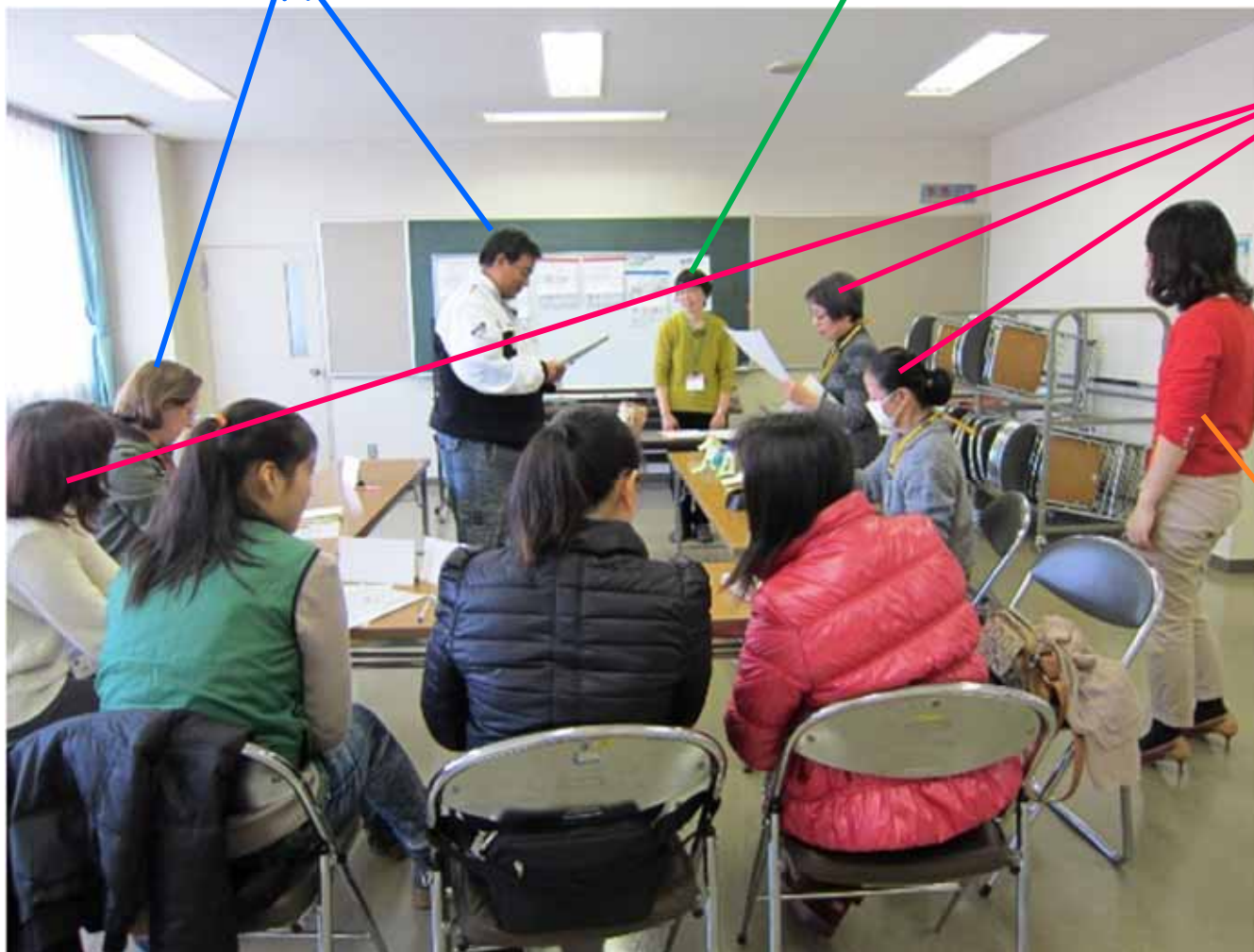


日本語学習者

日本語教授者(有資格者)

日本語学習
サポーター
(地域居住の
ボランティア
日本人住民)

総社市役所
職員



「日本語学習サポーター」による学習支援

日本語学習サポーターは、日本語のモデル発話、
ペア練習の相手、ロールプレイの見本、
レベル差の大きい学習者の補助などを行う。



地域住民との交流促進
地域の生活情報の提供・生きた日本語との接触
「地域住民同士がつながる場」へ

4 . 日本語教室を活性化させるための工夫

- ロールプレイによる実践的な会話練習
- レアリアの活用
- 日本語使用を促進させるゲーム
- 体験型文化学習
- 体験型文字学習

ロールプレイによる会話練習【火事・事故を知らせる】



レアリアの活用【薬局を利用する】



日本語使用を促進させるゲーム【買い物ゲーム】



体験型文化学習【書道体験】



体験型文化学習 【茶道体験】



体験型文化学習 【総社の祭りに参加する】



体験型文字学習 【七夕の短冊を書く】



体験型文字学習【年賀状を書く】



5. 地域の外国人支援活動・多文化共生を推進するための基盤作り



総社市役所庁内ロビーでの日本語教室活動の展示

6 . H24・25・26年度総社市日本語学習教材 『地域でつながる日本語教室』



学習教材の実物は
この後のポスターセッションでご覧ください！

6-1 学習教材の構成

【本編】 学習シラバスに基づき16～18章から構成

- **文法積み上げでなく1回完結型の授業形態**
- **各章ごとの語彙・表現，会話スクリプト**
(漢字にはルビ，必要に応じてローマ字併記)
- **各章のテーマの理解を促進する絵教材・資料**

【付録編】

- **ひらがな・カタカナ一覧表**
- **漢字練習シート**
- **総社市日本語教室でのイベント**

6-2 具体的な実践例:

「総社市役所に電話して外国人相談員を呼ぶ」

【本編】第2章「総社市役所で」を利用し、総社市役所に電話をして外国人相談員を呼ぶために必要な語彙・表現を学ぶ。



会話スクリプトを使って、日本語学習サポーターとペア練習



市役所職員と実践練習

2. 総社市役所で

もしもし…です

A: もしもし、 _____ ですか。 _____ さん ですか?
moshimoshi desu san desuka

B: はい、そうです。
hai soodasu

A: _____ さん、おながいします。
san onegaihinasu

B: はい、ちょっと、まってください。
hai chotto mattekudasai

B: いいえ、ちがいます。
ie chigaimasu

A: すみません。
sumimasen

外国人相談窓口 ishokuin soodan madoguchi

(1) 総社市役所 入庁・まちづくり課 (2F) 国際・交流推進係
sooja shibakusho irinchi-machizukuri ka kokusei-koonyuu suisnin kakari

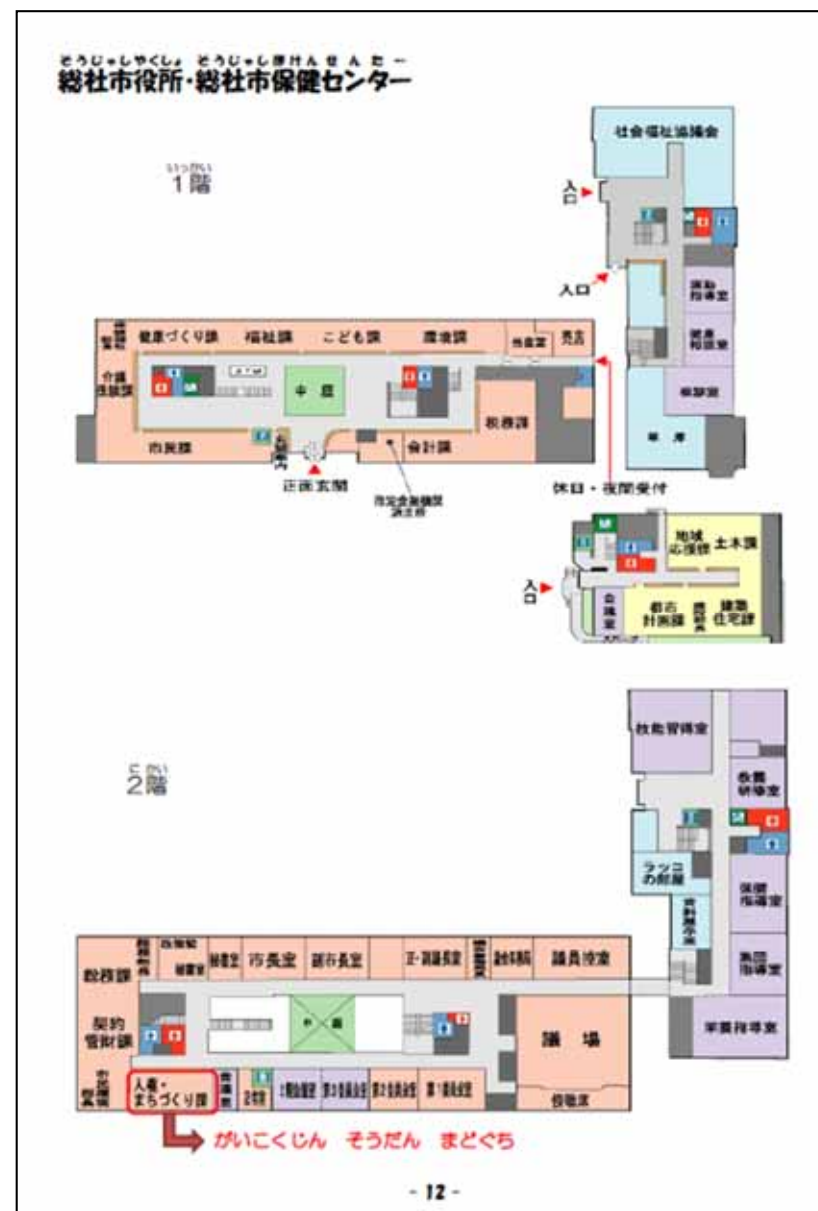
毎週 月曜日 ~ 金曜日 8:30~17:15
maishuu getsuyoubi ~ kinoyoubi

総社市多文化共生推進課・外国語相談員
課 設備 (タン・シュンワイ)

- 9 -

その他の活動例として・・・

- 【本編】第2章「総社市役所で」に収載の市役所内建物配置図を利用して、外国人相談窓口の位置を確認する。
- 電話番号の言い方を学ぶ。
- 「～階」の言い方を学ぶ。



しごと かんじ
仕事の漢字(2)

免	資	望	費
めんきょ 免許	しかく 資格	きぼう 希望	こうつうひ 交通費
免	資		
免	資		
免	資		



兔

兔

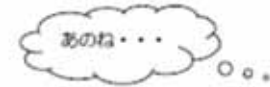
兔

兔

兔

受講者全員で行う「伝言ゲーム」で、授業で習った表現が学習できているか確認する。
その様子は【付録編】総社市日本語教室でのイベントに収載。

でんごんげーむ
伝言ゲーム



①ことばを伝えるゲームをします。「伝言ゲーム」です。
いくつかのチームに分かれます。



②日本語の先生がことばを言います。
「ゴニゴ、スタート！」
後ろの人に、小さな声で伝えます。



③さいこの人がことばを言えます。

④答え合わせです。
「もしもし、総社市役所ですか？」
今日のじゅぎょうで習ったことばです。みんなちゃんと言いました！



7. 学習者・支援者の声

—「地域住民同士がつながる場」に—

日本語が勉強できてうれしい。
日本で友達ができました。
タイ(来日2年)



子どもを預けて
日本語の勉強ができます。
フィリピン(来日7年)



子どもの幼稚園で話が
できるようになりました。
ミャンマー(来日3年)



総社の自然はとてもきれい。
日本の歴史や文化を学びたい。
ネパール(来日3年)

日本語教室とても楽しい！
中国(来日6か月)

日本語の文字を知りたい。
日本人ともっとしゃべれる
ようになりたい。
ブラジル(来日17年)



日本語学習サポーターとして教室に参加して…

- 普段、外国人と接する機会がないので、日本語教室で外国の人や文化に触れることができたのは貴重な体験だった。
- 町で出会う外国人に知り合いが増えてきて嬉しい。
- よりよい外国人支援の方法を学びたい。
- 外国人のみなさんが日本語教室を楽しみにして来られている様子を見ると、やりがいがあります。
- 地域に根ざした活動に参加できて、「総社っていいなあ～」と改めて思いました。

総社に暮らすみんなが笑顔でいられる
まちづくりを目指して



総社市
多文化共生